

授業科目名・形態	手話	演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	三ヶ田 典明		実務経験の有無	無	開講期	1～2年前期

【授業の主題】

聴覚障害者は、聞こえないことを理解されにくく、誤解や疎外を受けやすい。しかし障害の特性を理解し、手話・指さし・筆談など適切な支援を行うことで、コミュニケーション障害の軽減は可能である。

本講義では、聴覚障害者との対応の留意点を解説し、会話に必要な手話の基礎技術の習得を目指す。

【到達目標】

- 1) 聞こえない、話せないという障害の本質を理解する。
- 2) 手話は音声言語の単語を単に手話動作に置き換えたものではなく「イメージのやりとり」である事を理解する。
- 3) 指文字 50 音を完全にマスターする。(必須)
- 4) 聴覚障害者を取り巻く社会の現状と、支援の方向性を理解する。

【授業計画・内容】

第 1 回	講義…手話・聴覚障害の基礎知識	実技…伝えあってみましょう (身振り・あいさつ)
第 2 回		実技…自己紹介①・② (名前・家族・趣味、指文字)
第 3 回		実技…自己紹介③ (仕事・家の場所)
第 4 回	実技試験…ビデオ収録 (自己紹介①～③の表現が身についているか)	
第 5 回	難聴擬似体験 (言われていることが分からない=音声で情報が得られない体験をする)	
第 6 回	講義…ろう教育について	実技…受付①～②、科の手話、受付で使う手話
第 7 回		実技…問診①～⑨、症状・病名の手話、日時の手話
第 8 回		実技…問診⑩～⑫
第 9 回	講義…手話通訳とは	実技…診察①～⑬
第 10 回		実技…診察⑭～⑰、ゲスト交流の練習
第 11 回	実技試験…聴覚障害ゲストとの交流 (手話積極的に会話が出来ているか)	
第 12 回	聴覚障害者活動と福祉制度	実技…検査①～⑧、検査の手話単語
第 13 回		実技…主な検査の流れ
第 14 回		実技…治療①～⑧、薬の種類・剤形・使い方の手話
第 15 回	手話サークルとは	実技…薬局①～⑦

【授業実施方法】

講義・解説……講義形式で行う。主に音声・パワーポイント表示で行う。

実技演習……グループワークによる演習・発表を行う。主に音声以外の方法を用いて指導する。

手話以外の伝達方法についても学習する。

【授業準備】

指文字 50 音すべて表現するのは約 1 分で済む。授業前にウォーミングアップとして最低 3 回行ってくるることこと。

【主な関連する科目】

障害者福祉論・コミュニケーション技術・コミュニケーション論

【教科書等】

テキスト：手話で必見！医療のすべて〈外来編〉(一般社団法人 全日本ろうあ連盟)

資料：自作プリント・DVD 他

【参考文献】

適宜講義中に指示する。

【成績評価方法】

筆記試験 40%、実技試験 40%、演習への取り組み 10%、課題レポート 10%により評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

聴覚障害当事者団体の役員として、全国・県レベルの大会開催及び手話指導の経験から実例を織り交ぜ、手話は手先の技術だけを学ぶのではなく、背景にある聴覚障害者の生活に対する理解や信頼関係が重要なことに気づかせる。

【学生へのメッセージ】

聞こえる人の常識では、「会話は通じるのが当たり前。通じないのは、ちゃんと聞いていない」であるが、聴覚障害者の常識は、「会話は通じないのが当たり前。通じなかったら通じるように努力するもの」である。

授業中に通じないのを恥と思わず、失敗は修正のチャンスとプラスに考え、習った手話をどんどん使ってみる積極性が欲しい。そうすれば、ろう者講師との会話は前期のみでもかなり出来るようになる。